

## 合格体験記

### (1) 江口数学教室について

僕は一年の五月から三年の終わりまで江口数学教室に通いました。月謝が安く、個別指導なので好きなペースでやれるというのが大きな理由でした。おおまかな流れとしては、入塾後すぐに予習の授業を受けて七月に I A II B を終わらせ、BEST100 や単元別の特急便と標準問題で演習を積み、三年秋から東大の過去問を解いたという感じです。ここで扱われる問題は質・難易度ともに高く、解いた分の伸びを十分期待できるものだと思います。また週二回休まず通い続けることで、コンスタントに勉強する姿勢を身につける役にも立ちました。

### (2) 高校数学について

高校数学の特徴としては、過程よりも“結論を出す”ことに重点を置いていることが挙げられると思います。例えば、ヘロンの公式を使って簡単に三角形の面積を求めることはできても、その導出を覚えている人は少ないでしょう。高校数学は答えを求めるためのツールという側面が強く、必然的に試験問題も求値・求積問題が多くなります。何が言いたいかというと、厳密な論理体系や抽象的発想が必要とされる大学以降の数学に比べると、高校数学の理解は本人の努力によるところが大きいということです。無論、数学が暗記科目とまではいいません。しかし、定期試験や入試での数学の成績は、努力によってどれだけ高校数学というツールを使いこなせているかにかかっているといっても過言ではありません。実際、僕は数学オリンピック等の合宿で世界でもトップクラスの高校生たちを目の当たりにしましたが、彼らも才能だけでそこまで辿り着いたわけでは決してなく、幼少からの地道な努力を例外なく積み重ねていたのです。高校に入って数学が不得意になった、という人も多いとは思いますが、高校数学の難しさはそれを理解することにあるのではなく、それを運用するための計算力や集中力を身につけるところにあるのだということを忘れず、出来るようになるまで何度も繰り返し考えてみてください。

### (3) 終わりに

僕はこの教室に通った三年間で多くの壁にぶつかりました。予習の授業ではほとんど理解出来ていませんでしたし、膨大な解けない問題を前にして辞めたくなったことも多々ありました。しかし、そうした失敗に負けずに頑張りを続けたことが合格につながったのだと、今振り返ってみて強く思います。どの大学を受験するにせよ、合格に必要なのは、標準的な問題を当たり前で解ける力だけです。途中で嫌になっても諦めずに、頑張ってください。

東京大学教養学部理科一類合格  
修猷館卒